平成２８年度第５回宗像市幼児教育審議会

議事録（要点筆記）

期　日：　平成２９年２月９日（木）
時　間：　１９：００～２０：３０
会　場：　宗像市役所本館 103A 会議室

審議会委員					
船越　美穂	○	河本　博子	○	納富　恵子	○
新塘　元哉	○	元岡　充代	欠席	横川　哲朗	○
髙杉　洋史	○	幸　政恵	○	綱脇　陽子	○
檜山　理恵	○	安藤　周治	○	髙松　美香	○

事務局			
清水　比呂之	村上　治彦	薄　伸也	早川　靖彦
橘　正代	松尾　恵実		

【事前配布資料】
・宗像市幼児教育振興プログラム【第３期】（案）
・平成２８年度事業報告
・平成２９年度事業計画（案）
【当日配布資料】
・平成２８年度　宗像市幼児教育振興プログラム進捗状況
・平成２９年度　宗像市幼児教育振興プログラム計画（案）
・幼児教育審議会委員からの具体的施策（案）
・宗像市幼児教育振興プログラム（ダイジェスト版）【第２期】
・「(仮称）親育ちのめやす」パンフレット（案）
・平成２７年度「幼児（３・４・５歳児）をもつ保護者の子育てに関する調査」のまとめ（ダイジェスト版
・保幼小連携だより（No.４，No.５）

１　挨拶（省略）

２　前回議事録の確認

前回議事録については修正なしで承認された。

３　議事・報告事項

① 宗像市幼児教育振興プログラム（案）について（報告）

≪事務局からの説明≫

・前回（１１月８日）審議会の後、教育委員会及び庁議に幼児教育審議会から答申が出されたことを報告し、パブリック・コメント（市民意見提出手続）の実施を付議した。

・庁議での指摘を受け、幼児教育振興プログラムの【第２期の主な取り組みと成果】の保幼小連携・接続部分を修正した。「学びのめやす」のパンフレットのことについて、パンフレットの説明の段落から保幼小連携の段落へ移動した。
また、「１０か月すくすく相談会」の文章を子育て支援の段落へ移動した。

・審議会でメディアについてのご意見があり、元岡委員から「メディアの啓発」の言葉をいただき、さらに髙松委員から最後の段落にある「(子育て支援センターによる）親子のふれあい（遊び)」の言葉を補足していただいた。

・１２月１５日号の広報紙で、パブリック・コメントの実施について掲載し、１２月１５日から１月２３日まで実施した結果、市民からの意見は出されなかった。

・今後のスケジュールは、２月２１日に教育委員会へ、３月９日の庁議に報告して、第３期プログラムを決定する。その後、議会にも報告予定である。

② 宗像市幼児教育振興プログラムダイジェスト版（案）について（協議）

≪事務局からの説明≫

・第２期のダイジェスト版、最初のページ下部分と見開き右のページ部分について、第３期の内容が表記される。

・最後のページは、市の子ども施策の原点となっている「子ども基本条例」を継続して載せていきたいと考えている。

・残る見開きの左ページは、これまでどおり幼児期・教育の大切さを掲載する。今回の第３期では、家庭教育、インクルーシブ教育、さらなる保幼小連携にポイントを置いているので、内容については、これらを踏まえたものとする。基本的な構成には、大きな変更はない。

≪意見・質疑等≫

・家庭、地域、保育所・幼稚園等の３つの柱のうち、家庭については今後、家庭教育の充実についても内容を盛り込んでいく予定か。

→入れる予定である。

・「生活習慣の自立」について、家庭教育の中に入れてはどうか。

・保育所・幼稚園等で集団活動をする中で何が育つかを入れるべきではないか。

・保育所・幼稚園のところにある「集団活動」のところは、「集団保育と社会性の発達」という言い方の方が良い。社会性の発達が大事である。

・家庭の項目に心身の基盤形成とあるが、もう少し具体的な内容にしてはどうか。どういうことを目指して、どういうことをするのかという表現が良い。

・色覚の障がいを持つ方々に対して、どのような色の組み合わせが読み取りやすいかなど、文字の色、コントラストに配慮してほしい。薄い色の背景に文字の色が白では読みにくいので、気を付けてほしい。（色のバリアフリー）

・老若男女に読みやすいものにしてほしい。

・現行のプログラムでは地域社会という言葉が使われているが、第３期のプログラムでは地域という言葉に統一されるのか。
→地域社会は地域に、保育所・幼稚園については保育所・幼稚園・認定こども園等に修正する。

③ 平成２８年度事業報告（報告）
≪事務局からの説明≫
・平成２８年度の事業について、６つの基本施策での分類をした。

・平成２８年度中に行った事業の目的や内容、また、市がどういった支援を行ったかについて説明。

≪意見・質疑等≫
・特になし

④ 平成２９年度事業計画（案）について（協議）
≪事務局からの説明≫
・審議員から提出いただいた具体的施策（案）については、幼児教育研究協議会でお知らせさせていただいた。

●平成２８年度との相違点
・審議会開催を２回に変更
・小学校参観を実施予定（保育所、幼稚園の各１回の保育参観を保育所１回へ変更）

・保育所保育要録・幼稚園指導要録・認定こども園こども要録の様式を統一した。

・幼児教育研修は、ここ２年間食育を行ったため、違う内容の研修を考えている。

・家庭教育支援として、平成２９年度は、まず（仮称）親育ちのめやすのパンフレットを配布する（新規事業）

・家庭教育に力を入れ、さらなる保幼小連携へ事業を進めていく。

・インクルーシブ教育については、平成２９年度に新規事業の予定はないが、平成３０年度以降に新規事業を追加する方向で平成２９年度中に検討していく。

≪意見・質疑等≫

・宗像市は研修を受ける機会や、研修に対する補助金等の制度が充実しているように思うが、今後は講演会に行きたくても行けない人などにも講義のポイント等の情報を広めてほしい。新規の事業を行わなくても、広報紙やホームページ等を活用して情報は伝えることができる。例えば、障がいをもつ子どもの家庭だけではなく、その周辺の人々にも情報が届けば、インクルーシブ教育の推進につながるのではないか。

・教員研修の内容を集約したり、実際に受講した先生が他の人に情報を共有できるような場を作ったりしてはどうか。お金をかけずに、市民にも良い学びの情報が伝わるような仕組みづくりをしてほしい。

・身近な人が研修等を受けて成長し頑張っている姿が、教育者や保育者の方に良い影響を与える。

・園から市に提出する研修の報告書の様式を、園の自己評価の部分などを設けて様式を統一してはどうか。

・研修に関する各園の事業報告をもとに、その成果について幼児教育審議会等で話し合うなど、成果を検証する必要があるのではないか。目に見える形にすれば、市民にもアピールできるのではないか。

・子育て支援センターでは、研修について、講座のポイントなどをまとめた通信紙を発行している。現在、４５号まで発行し、情報が蓄積されている。必要な時に読み返したり、保護者に配布したりできる。講座に出席するのが苦手なお母さん達にも好評であり、低コストでみんなで学び合うことができる。

・保護者にとって、市からの配布物については時間があったら見るという意識であるが、

学校や園を通じて配布されるものはより関心をもって見ている。

４　その他

①　「(仮称) 親育ちのめやす」について

≪事務局からの説明≫

・現在、ワーキング会議を４回開催し、３月にもう１回会議開催予定である。

・宗像市に現在あるパンフレット等につながるものを作っている。

・パンフレットを母子手帳に入れておいて、時間がある時に読み物として使えたり、冷蔵庫に貼って使えたり、困ったときに相談窓口も載っているものを作成している。また、子育てに大切なポイントを入れる予定である。

・保護者の心にすっと伝わるものを作り、家庭教育の一助になればと考えている。

・めやすは示すが、できなければ・やらなければといったような保護者に対して負担になるものではなくソフトな表現でありながら、重要な情報をしっかり入れていきたい。

≪意見・質疑等≫

・新しく作る幼児教育振興プログラムダイジェスト版と同様に、こちらも文字の色などレイアウトを見やすくしてほしい。白地にして文字を出すなど色のバリアフリーに配慮してほしい。

・子どもに対して親がしてあげることばかり書かれているが、特に発達初期の段階では、子どもにとって安全、安心な場を作ってあげること、子どもがすることに対して応答することが大切。子どもを見守る視点もいれてほしい。

・保護者がよく見ていないと、その子がしてほしいと思っていることが分からない。

②　県の子育てに関する調査について

≪事務局からの説明≫

・県が５年に１度調べている調査。審議会の中で、実態についての話がよく出ていたので、参考のために配布。

≪意見・質疑等≫

・特になし。

≪事務局から≫

・次回開催日について

平成２９年１０月開催予定。日程は後日調整を行う。